

令和 5 年 7 月 3 日

皆様へ

ガイド曲の作詞者からのご挨拶

癒しの音楽室は、ストレスフルな(研究者の先生方がそう言われているので、この単語使わせて頂きます。)現代社会において、癒しを提供する目的で作られることになりました。

他方、湯河原さんの原作「南十字の伝説」は、世界を汚す人間の中から選ばれた一人の少年(擦れた大人ではダメなんですって!)が、火の精、水の精、木の精、金の精、土の精と共に、人間が汚してきた過去の愚行を清算していく物語です。

現代社会は、ある側面ではとても不自然だと思います。つまり、「癒しの音楽室」を企画された方々は、サイトと原作物語の考え方が本質的に同じであると考えて、この5人の妖精さんを「癒しの音楽室」のガイド役に見立てたのでしょう。先日、サイトのロゴを見せて頂きましたが、火、水、木、金、土のマークが散りばめられていて、意味深でした。

原作物語において、この5人(?)には名前があり、そしてそれぞれの歌を Kanon さんと私で作る事になりました。どの歌も、一生懸命に、最後は命を投げうって懺悔をする少年の心に惹かれる、恋の歌です。

金の妖精ピーファは、私が若かりし頃、まだ原作が同人誌で断続的に発刊されていた時期の作品です。まだ原作の設定が完成しておらず、当時は恋の歌と言う側面を強く押し出すことになりました。勿論、澄んだ空や自然の輝きは、決して汚してはならないと言う気持ちで作詞しました。

次に作詞したのは、木の妖精ツインテールと火の妖精ユニコーンでした。作曲された Kanon さんが今回の機会に作り直しを希望されましたので、折角なので歌詞も少々改善させて頂きました。ツインテールの歌詞は、初版では、自然の中で人の手によって守られ、育てられた木の芽が育っていくというだけの内容でした。今回の第二版では、その木はやがて人より大きくなり、育ててくれたその人を助けたいと思う様になるところまで、内容を追加してみました。実は、最近やっと自分の受けて来た恩が解る様になったのかな、と照れ臭い様な、嬉しい様な気持ちです。Kanon さんがこの第二版の時間経過に即して、中間部とラストを素敵に盛り上げて下さいました。ユニコーンも、所々つたなかった語彙を補っておきました。ちょっとだけ大人の恋になった様な気がします。実は、ピーファが余りに子供の恋の歌なので、ツインテールやユニコーンとギャップが出来てしまい、この際ピーファも直したいなと一瞬思いました。あれはあれで音楽と詞がマッチしているので、曲に差しさわりのない程度に単語を若干変更させて頂きました。

さて、この頃、物語の基本理念ができた様なのですが、同時に湯河原さんが多忙になり原作は掲載中断となっていました。そして、土の妖精キャロディと水の妖精マーメイドを作る前に、テーマソング(エンディング曲)とサブテーマソング(オープニング曲)を頼られました。(どうやら、同人アニメ制作を視野に入っていた様です!)テーマソングの詞の内容が少し重くなってしまい、私も少し息切れ状態になってしまいました。キャロディとマーメイドは、キャラクターデザインは済んでいた様ですが、まだ登場していませんでした。私は、この2曲はもう頼まれないかも知れないと思いながらも、心の中でイメージを温め続けてきました。そんな訳で、今回作詞の依頼が来た時、単なる恋の歌ではなく、自然と人間と一緒に仲良く共存(自然に対して大変烏滸がましいのですが)できると良いなあと言う、原作の基本理念そのものを歌詞に盛り込むことができました。お分かりかも知れませんが、キャロディとマーメイドの作詞には、東日本大震

スタッフコメント

災の津波の映像や、ウクライナ戦争の映あれはあれで音楽と詞がマッチしているので、像が、大きく影響しています。大切な物は守る、と言う覚悟や、足下の幸せを大切にしたい、と言うのは本音です。

この度、ツインテールを歌唱して頂く美果さんに詞の英訳（説明）をお願いできるとの事で、大変嬉しいです。この 5 曲の作詞は、時間と共に変化する自分自身を見ている様で、灌漑深いものがあります。そして、自然と喧嘩せずに静かに食らいたいという気持ちが、万国共通なら良いな、と思っています。でも、不思議ですね、時差のあるアメリカの方と情報共有できるなんて。

地球温暖化が進む中、人は今こそ立ち止まって考えなければならない時に来ているのだと思います。とりあえず私は、食材や資源の無駄使いをやめて、バスや自動車ではなく、自転車や徒歩で移動する事を心掛けています。

Sai Y.